

第2回公民館カフェ

第2回公民館カフェが9月30日に月島区民館で開かれました。今回は、キャリアコンサルタントとして活躍する服部 文(はっとりふみ)さんをお招きし、「自分らしい人生を選び取る」というテーマで話し合いました。がん診断を受けたご本人やご家族、医療者、企業関係者、メディア関係者など、39名の方々が参加されました。

まず、服部さんからキャリアコンサルタントというお仕事について詳しい説明があり、キャリア支援を目指されたいくつかのきっかけや、活動を通じて普段から感じていること、そして治療と就労の両立を目指す個人や組織に向けた支援についてのお話をいただきました。

質疑応答の後は6つのグループに分かれた話し合いに進み、お茶とお団子を楽しみながら、全般的な感想や治療と就労の両立について意見が交わされました。自己紹介だけで盛り上がったグループもあれば、就労の体験談や日常の疑問を分かち合ったグループなど、キャリアコンサルタント関連の話題に限らず、内容はさまざまでした。

以下は、意見発表の時間にあげられたコメントの一部です。

- ・見た目にはわからない体調不良が辛い。について、誰に相談したらいいかそもそもわからない。
- ・仕事と治療の両立は自分で解決しなくてはいけないのではないかな。
- ・相談は、本人に「誰かに相談したい」という意思があることが前提。
- ・ほかの人の具体的な体験を聞くのも手ではないかな。
- ・仕事をやめるにせよ、続けるにせよ、自分の悩みを傾聴してもらえる場は大事。
- ・会社に病気を伝えたときの不利益が怖い。
- ・会社の休職制度の充実を望む。
- ・社会的にワークシェアリングが進めば、支援する周囲の負担も減るのでは。
- ・キャリアコンサルタントという職種の仕事内容をこれまでよく知らなかった。
- ・復職直後でも配慮してくれない職場はザラにあるのが現実。
- ・支援を自分で引き出す努力も大事。
- ・医療ソーシャルワーカーが病院のどこにいるのかわからない。
- ・客観的な病状と本人の希望が両立しないときに、周囲はどうしたらよいか。
(10ラウンドまで戦えないときに、誰がタオルを投げるのか。リングドクターは誰か。)

参加者との質疑応答の中では、職場との調整場面ではときに「したたかになる」ことの大切さも語られ、自分をアピールするためのヒントや、模擬面接をしてみるなどの効果なども話題になりました。

終了後も、グループの話し合いがはずむ光景も見られました。公民館カフェは、異なる立場の方々の出会いの場に育ちつつあるようです。これからも隔月ペースで開催していきますので、皆さまのご参加をお待ちいたします。

(文責 高橋 都)